

おくじょう

はなし

「屋上の話」

作　　むらやまだいすけ（顧問）

日本大学鶴ヶ丘高等学校

【キャスト】

三田あやの

長尾時子

栗谷辰雄

菅萌実

堰由美

初山優希

宮前たま子

小向朋美

塚越恵実

小倉真智

田尻洋平

新城道子

小杉めぐみ

桜本リツ子

浮島直美

(緞帳オープンでスタート)

照明、「放課後の屋上」F1

※ p46「夕焼けの屋上」クロスフェード

放課後の江名之浜高校の屋上。夕暮れ時で静かだ。夏前の湿った風が吹いている。

三田、舞台中央に立っている。景色を見渡し、生気が抜けているようだ。

※客席が自殺を受け入れるような空気になったら話し始める。

「パパ。ママ。みんな……本当にごめんね……。律子おばちゃん。私ね、もう、ダメだ……これ以上、生きてられない……耐えられない……みんな、ごめん、ごめん……今から……今から、行くから」

舞台中央の端まで歩き、手すりをつかんで飛び降りようと試みる。

長尾、上手から入ってくる。三田の様子を見て不審がるが、自殺しようとしていることを脱ぎ揃えられた靴と遺書から悟り、驚く。

三田、長尾に気づき、そのまま動かず、長尾を見る。

小康状態を保っている。

長尾 あなた、もしかして、その……。

三田 来ないで。

長尾 いや、え。ちよつと。

三田 邪魔しないで。

長尾 あ、はい。いや、でも。

三田 ほつといてよ！

長尾 あ、そんなわけには。

三田 死なせて。

長尾 ああ、やっぱりそうなんだ。

三田 は？

長尾 あのー、こはちよつと相談なんだけど…。

三田 ちよつと、何、来ないでよ！

長尾 あのね、その。。

三田 あんた何なのよ！

長尾 まげて？

三田 え？

長尾 だから、まげてって？

三田 は？

長尾 えー、いいじゃない。私もまげてよー。

三田 何いつてるの。

長尾 だから、私もほら、一緒に、ね？

三田 え！？

長尾 いやあね、私もしよつかないって思ってたんだけど、なかなか踏み出せなくてさ。やっぱり一人だと。

三田 ちよつと、え！？

長尾 2人で、ね？2人で飛び降りちやおう。

三田 はあ？ちよつと、なんなのよ！

長尾 いやー、良かったー！！あたしさ、やっぱりさみしいっていうか、なんていうか。仲間欲しかったんだよね。

三田 仲間？

長尾 そうそう。あたしずーと死にたくてさ。これで安心だわ。ありがと。じゃあ、さっそくだけど、靴脱ぐ

ねー。

三田 ちよつと、やめなさいよ。私は嫌よ、絶対！

長尾 なんでよ。いいじゃないのー、ちよつとくらい。

三田 ちよつとも何もないでしょ。死ぬんだったら一人で死になさいよ。

長尾 だから、寂しいのよ。ね？（片足脱ぎはじめる）
 三田 ちよっとー。やめなさいよ。（靴を履かせようとして、揉み合う）
 長尾 いいじゃないのー。ずるいよ一人でなんか。脱がせてよー。靴脱がせてよー。
 三田 はあ？いいから、靴履いてどつかいてよ。
 長尾 なんでよー。仲間じゃん。
 三田 仲間なんかじゃないから。
 長尾 寂しいこと言わないでよ。ねえ、そういえばなんで？なんで死のうとしてのの？
 三田 は？言わないから。
 長尾 いいじゃん。え、やつぱり振られたとか？
 三田 なわけないでしょ。
 長尾 じゃあ、DVとか？
 三田 違うわよ。
 長尾 え、じゃなに？
 三田 いや、なんで言わなきゃいけないのよ。
 長尾 そう、だよね…死ぬのに、理由なんて、ないよね。
 三田 え？
 長尾 理由なんてないよね。あ、ごめん。なんでもない。
 三田 うん…。
 長尾 えーと、じゃあ、靴ぬぐねー。
 三田 脱がないでよ。
 長尾 脱がせてよー。
 三田 やめなさいよ。
 長尾 左足から脱がせてよー。
 三田 いいから、一人で死なせてよ。
 長尾 靴下も脱がせてよー。
 三田 は？
 長尾 靴下もー。

二人がもみ合っている中、上手から栗谷がバラの花束を抱えながら、登場する。緊張して周りが見えていない。目をパチクリさせながら、深呼吸している。栗谷が登場してからももみ合っている。そして気づく。

三田　ちよつと何いつてるの？

長尾　左足からー。

三田　左に何かこだわりでもあるの？

長尾　ないー。

三田　なんなのこいつ…。ちよつと。

長尾　なにー。

三田　ほら、あれ。

長尾　なにー。あ。誰がいる！

栗谷、ようやく気づく。その後、困った風で、うんざりしたように言い放つ。

栗谷　ちよつと、おまえら、どつかいってくれる？

長尾　え？

栗谷　だから、どつかいけっていつてんの？

長尾　あいつ、何様なの？

栗谷　早くしろよ。

長尾　はあ？なんだあいつ、急に來て図々しいな。

三田　あんたもでしょ。

長尾　そう？ちよつと、こつちが先に來てたんだから、あんたがどつか行きなさいよ。

栗谷　は？関係ねえだろ！

長尾　いけ好かない男だな！こつちはね、死のうとしてるんだよ！

三田　ちよつと。

長尾　わかる？自殺するの！死に際なの！あんたこそ、どつかいってちょーだい！

栗谷 だから？

長尾 え？

栗谷 こっちはな、今から人生かけた告白なんだよ！

長尾 告白？

栗谷 そうだよ！だから、はやくどっかいつてくれ！

長尾 告白なんて明日でいいでしょうよ。ねえ？

栗谷 いや、だめだ！今日じゃないとだめだ！

長尾 なんで？

栗谷 この告白には夕陽が必要なんだよ。それもこの日の、太陽の入射角がこの角度のこの日でないとな

長尾 何言ってるの

栗谷 俺はな、この日のために綿密に計画して来たんだよ。毎晩毎晩寝ずに！

長尾 あっそ。

栗谷 この告白には夕陽が必要なんだよ。夕陽が。

長尾 何熱くなってるの。

栗谷 そしてこの花束。

長尾 バラの？え、告白に使うの？

栗谷 当たり前だろ。

長尾 何時代だよ。

栗谷 おまえら今から死ぬんだよな。

長尾 ええそうよ。一緒に。

三田 だから、嫌だつて。

栗谷 じゃあ冥土の土産に告白の段取りを教えといてやるよ。

長尾 いや、別に

栗谷 いいか。時は4時半。風は頬を撫でる程度。そして、さっきもいったが、夕陽が船橋さんの横っ面にあたっ

てくる。。。

長尾 船橋って言うんだ。相手の子。

栗谷 うん。ああ、きれいだ。。この夕陽の中、彼女は目をうるましてくるだろう。

長尾　　なんで？

三田　知らないわよ。

栗谷　僕を見つけた彼女。泣いている僕。

長尾　いきなり泣いちゃったよ。

栗谷　そして二人は見つめ合う。何かを悟ったようにね。

長尾　これいつまで続きます？

栗谷　まだまだだ。話は戻して、見つめ合う二人。そして、僕はバラの花束を彼女に渡す。本数は22本。なん
でかわかるか？

長尾　しらねえよ。

栗谷　2月2日……俺の誕生日だ。

長尾　まじで、しらねえ。

栗谷　そしてまた、見つめ合う二人。彼女は花束を受け取り、匂いをかぐだろう。そして、また、見つめ合う二
人。

長尾　何回見つめ合うんだろうね。

三田　うるさい。

栗谷　見つめあつたさきには、彼女の夕焼けに濡れる唇。

長尾　きも

栗谷　そして、また、

長尾　見つめ合うふたり。もうわかったよ。

栗谷　彼女は目を潤ませて、僕の胸に飛び込む。花束を放り出してね。

長尾　せつかくあげたのに？

栗谷　いいんだ。そして上目遣いに見つめる目。そして、僕は彼女の髪を撫で回し、そして。。

あとはわかるな。

長尾　いや、わかったけどさ。

栗谷　わかっただろ？俺がどれだけこの告白にかけてるか

長尾　いや、でもさ、あたしたちだってね、ここで死のうとしてるんだから、ゆずりなさいよ
栗谷　は？こっちはな、命をかけてるんだよ。

長尾 あたしたちだつて命かけてるわよ。ねえ？
 三田 一緒にしないで。
 栗谷 そんな時に、おまえらみたいなカップルがいちや、雰囲気合わないんだよ。
 長尾 雰囲気に合わないってどういふことよ！
 三田 まず、カップルを否定しなさいよ！
 長尾 え、そう？
 三田 当たり前でしょ。
 長尾 ああ、ごめん。
 栗谷 いいから、早くしてよ。もう来ちゃうつて。
 三田 ちよつと！
 長尾 お。
 三田 告白なんて、別にいいじゃなくていいでしょ。もう邪魔しないでよ！
 長尾 いいこと言った。うん。
 三田 あんたもよ。
 栗谷 はあ？死ぬのだってどこでもいいじゃねえか！野垂れ死ねよ。そこらへんで！
 三田 ああ、いいわよ、のたれ死ねわよ！
 栗谷 おうやってみろ！
 三田 やつてやるわよ！
 栗谷 どうせできねえだろ？
 三田 はあ？マジでムカつく。野垂れ死ねわよ！
 長尾 おまえら、武士か！
 2人 ？
 長尾 ……え、ほら、武士つて、そこらへんでき、ほら、斬られてさ、のたれ死んだりするじゃない？…いまいち
 ぴんときない？
 三田 もういいから、ふたりともどつかいてよ。
 長尾 あーわかった！とりあえず、そのロマンバカ、いつくるんだ、相手は。
 栗谷 だから、さっき言ったように、4時半だ。

三田 え、(時計を見る)もうとくに過ぎてない？
栗谷 何を言ってるんだ？10分前だろうが？
長尾 いや、あたしのもとくに過ぎてるよ。
栗谷 え？あ！時計、止まってる。。。
長尾 やっちまいましたね。
栗谷 え・・・ええ？どうしよう！
長尾 どうしようもこうしようも、もう時間はすぎてるんだから、諦めなよ。
栗谷 諦められるか！今日、今日決めたいんだ！入射角的に！
長尾 いやでも、もう来ないって。
栗谷 なぜだ。
長尾 だってとくに時間過ぎてるしさ。あ、そういえば、何時からいたの？
三田 え、4時すこしすぎくらいからかな。
栗谷 なに？じゃあ、4時半にはいたのか。
三田 いたけど。
栗谷 船橋さんは来たか？
長尾 え？
栗谷 いや、その、髪はこれくらいで。こう、笑うと八重歯がかわいくて、ああ、とにかく女子は来たのか？
三田 いや、だれも来てなかったけど。
栗谷 そう、そっか。。。船橋さん来てくれなかったんだ。。。
長尾 ドンマイ。
栗谷 間に合っても、意味なかったってことか。
長尾 まあ、そんなこともあるよ。
栗谷 そうだな。うううう(泣き始める)
長尾 おいおい
栗谷 うおおおおお！
長尾 泣くなよ！ていうか、なにその泣き方！
栗谷 うおおおーん、うおおおーん。

長尾 あー、もーどうする？

三田 なんかにあげたら？

長尾 お、やさしいところあるじゃん。

三田 早くいなくなつてほしいだけよ。

長尾 あっそ。えーと、あ、これあげる。

長尾、飴を渡す。

栗谷 あ、これは。。。。

長尾 飴。

栗谷 飴。。。こんな時に飴？

長尾 いいから、食べてよ。

栗谷 くそ。こんな女に施しを受けるとわな。

長尾 いいから、よく見て。

栗谷 あ？ん？こ、これは！な、なめているうちに、なめているうちに、色が変わるやつじゃないか！

長尾 めしがあがれ

栗谷 おう！（口に放り込む）うん、うん、うん。。。見たい。早く見たい。でも、手に出すのは汚い…ん？これは！

長尾 どうした？

栗谷 あ、味も変わるのか…！

長尾 そうだよ。

栗谷 染みるよ。メロン味からのイチゴ味が舌と目に染みるよ。

長尾 そう。。。じゃあ、帰ってくれる？

栗谷 ああ。なんかわるかったな。

三田 帰るんだ。

栗谷 ちよつと俺もさ、緊張しててさ。

三田 いいよ。

栗谷　じゃあ、帰るわ。いろいろありがとな。えーと、二人は、死ぬんだっけ？
三田　うん。。。

栗谷　成功を？いや、冥福を？いや、わかんないけど、おいのりしてます。
長尾　わかった。じゃあ今度は時間間違えないようにね

栗谷　まったくだよ。じゃ。

栗谷、はけようとするが、誰かが階段を上ってくる音に気がつき、驚愕。

栗谷　きききき来た！

長尾　え？きたの？

栗谷　来たんだよ！

長尾　え、幕張さんだっけ？

栗谷　船橋だよ！

長尾　えー！来たって！どうするどうする！

三田　別にどーってことないでしょ。

長尾　だって、だってさ！

三田　いいから。

栗谷　あー、どうしようどうしよ。

三田　え？

栗谷　ああ、体が、体が！

長尾　震えてる。

三田　もう男ならしっかりしなさいよ！

三田、栗谷の背中を叩く

栗谷　うひょ！あ、とまった。

三田　しっかりしなさいよ。

栗谷 わ、わかった。

長尾 なんか、かつこいいじゃん。

三田 うるさいわね。

長尾 ほら、早く。

栗谷 お、おう。

長尾 あたしたちどうする？

三田 え？

長尾 んー、飛び降りちゃう？

三田 どんなタイミングよ。

長尾 じゃあ、とりあえず、端にいよ。

3人、固唾を飲んで待ち構える。

菅、入ってくる。

四人に静寂が訪れる。

顔を見合う。

栗谷 だれ？

長尾 え、違う人？

栗谷 ああ。で、だれ？

菅 あ、菅です。

栗谷 はい。

菅 菅です。

長尾 えーと、わかったんだけど、その、ここは何しに？

菅 呼ばれたんで。

長尾 誰に？

菅 えーと、（ポケットから手紙を出す）

栗谷 それ、俺の！

菅 あ、そうですか。

栗谷 あ、そうですか、じゃなくて、なんで君がもってるの？

菅 いや、下駄箱に入っていたので。

栗谷 え？そんなはず。。。。

長尾 間違えたんじゃない？

三田 時間間違えたり、入れる場所間違えたり、頼りないわね。

栗谷 でも、手紙に船橋さんへって書いてあるはずだけど。

菅 はい。書いてありました。

3人 ？

菅 このおもて面ですよ？ほら。

3人 ？

菅 ほら、「船橋さんへ」って、書いてあります。

3人 ？

菅 ほら。

長尾 いや、わかってる。うん、わかってるんだけど、なんでかな？その、自分宛じゃないじゃない？

栗谷 そ、そうだよ。

菅 いやー、私、菅って言うんですけど、もしかしたらですよ、もしかしたら、私、船橋だったかもなーって。。。ダメだ、理解できない！

長尾 そうなんです。私よく、何言ってるかわからないって言われます。

菅 急にどうした？

菅 だから、あんまりだれも話しかけてくれなくて、声出したの何日振りかな。とにかく久しぶりです。

長尾 いやいや、いいすぎでしょ。

三田 そうよ。

栗谷 うん。

菅 いや、本当です。

長尾 家で誰かと話すでしょ？

菅 いや、私、いま家で一人なんです。一年前に、父が会社の責任をなすりつけられて、懲役10年で刑務所。母は、極度の心労から怪しげな宗教にはまり、今ではコストリカ支部の教祖に。兄は、アザラシになりたいと言って3年前に北極に飛び出したつきり消息不明。お爺ちゃん、家族がこんな風になったのは、全てカラスのせいだとか言っ、カラスを退治していたのですが、お尻を突かれて、いぼ痔で入院。お婆ちゃんは、つきつきりで看病して、いぼ痔で入院。だから、最近、誰とも話してないんです。

長尾 よくわからん。

三田 え、それであなたは大丈夫なの？

菅 大丈夫です。

栗谷 いや、どう考えて大丈夫じゃないでしょ。

菅 そうですかね。

栗谷 クラスは？

菅 C組です。

栗谷 友達いないの？

菅 ？

栗谷 そっか、いないんだね

菅 あ、クラスの人みんな優しいですよ。

長尾 ん？友達いないのに優しい？

菅 ええ、皆、私が来ると道を開けてくれるし、色々気を遣ってくれていて、私がいなくていいことしてくれていた。り。

長尾 え、それ、あんた

三田 いじめじゃない？

菅 いじめ？

長尾 そうよ。みんなあんたを避けたり、シカトしてるってことでしょ？

菅 そうですかね。わかりません。

栗谷 担任の先生には相談したのか？

菅 あ、一応、報告はしました。報道相が大事だって、言うもので。栗谷 で？

菅 いや、忙しそうで特に何も。
 長尾 誰なの、担任？
 菅 えっと、藤沢先生です。
 長尾 知ってる？
 三田 知らない。
 栗谷 俺も。
 菅 まあ、しょうがないです。
 三田 しょうがないよね。
 栗谷 辛いのか？友達もいなくて、家族もないんだろ？
 菅 まあ、辛いといえば辛いですね。
 長尾 辛いでしょうよ。
 三田 ねえ、そんな時さ、死にたく、ならない？
 長尾 え？
 三田 死にたくならない？
 菅 あ—————！
 長尾 おーびつくりした！
 菅 その手がありますね。
 長尾 なんだよ。
 菅 死ぬ、か！いいですね！
 栗谷 俺もいいかも。
 菅 え？
 栗谷 もう、船橋さんはきつと来ないし。実は俺も、いじめられてるんです。もういいかな。
 長尾 お、いいねー。じゃあ、4人でつてことで！
 三田 ちよつと待つて。なんであんなたちと一緒に死ななくちゃいけないのよ
 長尾 えー、まだ言うてるの？みんなで死のうよー。
 栗谷 そうだよ。
 菅 そうですよ。一緒に死ぬぞーって言うてたじゃないですか。

三田 言ってない。

菅 そうでしたか。

長尾 ここはさ、この夕暮れ時にさ、思い切って、パーツと飛んじゃおうよ。ね？

栗谷 そうだよ、入射角的にも。

三田 だから、嫌だっって言ってるでしょ。

長尾 そこをなんとかさー。

菅 あれ。

栗谷 ん？どうした？

菅 だれか来るみたいですよ。足音が。

長尾 え、まさか。

栗谷 ふ、船橋さん！ど、ど、ど、どうしよう。

長尾 落ち着いて。

菅 だれですか？

三田 あいつの告白の相手よ。

菅 え、でも、これ。。。

三田 あ。そうだよ。渡せてないんだから、来るはずないよね。

菅 いまから、そのひとに渡して来ますか？

三田 いや、無理でしょ。

長尾 いい？今度こそ、来るんだから、気を確かにね。

栗谷 ああ、わかった。お、声も出るぞ！

長尾 飴が効いたのよ。

栗谷 サンキュー。

菅 おーい。

三田 おい、おいつてば。

栗谷 もし、これがうまくいったら、一杯おごらせてくれ。

長尾 わかった。

栗谷 駅前のケーキ屋にしよう。

長尾　じゃあ、チヨケーキに「ヨア」を頼むわ。

栗谷　いいぜ。ただし、虫歯になるなよ。いってくらあ！

長尾　おう！

菅　いいんですか。

三田　いいよ。もう。こっちでみてようよ。

待ち構える栗谷。

上手から堰がやってくる

静寂が訪れる。

栗谷　だれ？

堰　堰です。

栗谷　はい。

堰　堰です。

長尾　おんなじようなの来たね。

堰　おんなじ？この方ですか

栗谷　違うよ。

菅　あ。

三田　どうしたの？

菅、堰のもとへ行き

右手を堰に向ける。小倉も右手を向け、手のひら同士を合わせ、一回転する。
その後、手を離す。

長尾　どういうこと？

菅、堰　知り合いです。

栗谷　なんなの？

菅 よく図書室で一緒になるんです。
堰 はい。

菅 出会いは一週間と三日前です。

長尾 10日前でよくない？

堰 一年前くらいかなー！

栗谷 お、おう。

堰 ロシア文学コーナーでよく顔を合わせるので、思い切って声かけたんです。一週間と三日前に
長尾 だから。。。

堰 そしたら気があう気が合う。話が止まらなくなつて。特に。。。いや、これはちよつと恥ずかしいんですけど。
菅 ちよつと、堰さん、はずかしいですよ。

堰 そうですね、ちよつとこれは恥ずかしいですね。すみません。

菅、堰、いちやいちやする。

栗谷 え、何が、え何が、

長尾 なぜだろう、気になるね。

堰 いや、ねえ？

菅 うん。

栗谷 言つてくれ。なんだろう、気になるんだ

菅 じゃあ、一緒に言つ？

堰 そうね。じゃあ、言いますね。せーの。

2人 ツルゲーネフ。

栗谷 は？

管 ちよつと、言わないで下さいよ。

堰 ごめんなさい、言っちゃいました。

管 もう、顔から火が出そうです。

堰 ほら、見てみて。

管 恥ずかしい！

栗谷 どうとうわからん。

長尾 ほんと。

栗谷 で、お二人は、なんだかんだで友達なのね。

管 友達？

堰 ん？

管 友達ってなんですか？

栗谷 宇宙から来たのか？

堰 調べるね。(バックから辞書を取り出す)友達、「互いに心を許しあって、対等に交わっている人」

管 ……

堰 友達…

2人でまた、てのひらを合わせて一回転。

2人 友達です。

長尾 あ、はい。

管 友達…

三田 よかったじゃない？友達がいて。

管 そうですね。よかったです。みなさん、お詫びしたいことがあるのですが。

長尾 なに？

管 先ほどの、死ぬ話、やめてもよいですか？

栗谷 ああ、うん。

長尾 うん、大丈夫よ。

管 ほんとごめんなさい。死ぬのが怖くなりました。

長尾 そう。

堰 死んじゃうの？

管 いえ。
 堰 よかったです。また、ツルゲーネフの話できますね。
 管 ちよつと、だから、恥ずかしいからやめてください。
 三田 なんて、なんで死なないの。
 管 うーん。堰さんの顔を見たら、怖くなったんです。
 堰 私の顔、こわいですか？
 管 いえ、優しい顔です。
 三田 死なないんだ…。
 菅 はい、すみません。友達がいるので。
 三田 友達…：そう…：じゃあ、帰りなよ。邪魔なの。
 長尾 ひつど、邪魔って。
 栗谷 人間の情がないのか。
 三田 はいはい、じゃ。
 管 はい。みなさん、ありがとうございます。
 堰 お世話になりました。行きましょ。あ、すみません。
 栗谷 なに？
 堰 それ、いただけませんか？
 栗谷 え、それって、逆プロポーズってやつ？
 堰 違います。
 栗谷 ふられたよ。
 長尾 で、なんで？
 堰 あの、枕元に置いて寝たいんで
 栗谷 じゃあ、仕方ないな。
 長尾 そうだね。
 栗谷 はい。
 堰 ありがとうございます。では。お世話になりました。

管、堰、談笑しながら、下手に去る。

栗谷 なんだったんだ。

長尾 よし、じゃあみなさん切り替えていきましょー。切り替えて死にましょー。

三田 だから、あんたらも帰りなさ……

上手から、初山がラジカセを持って登場。「さーせーん、さーせーん。」と言いながら、舞台の中央付近にラジカセを置き、再生ボタンを押す。けたたましい音楽とともに、宮前が登場する。の声とシャッター音が聞こえる。「いい……最高……最高……じゃあ、遠く見ちゃおう。いいねーその表情……最高最高……じゃあ、次は、回っちゃおう、そうそう、回っちゃおう回っちゃおう、いいねー最高……」それに合わせて宮前の「こうですかー、わーうれしー、かわいくてよかったー」という。中央まで二人出てくる。

栗谷 また、なんか来たぞ。

宮前 そうですかー。

初山 あ、すみません。ちよつと撮影しちゃうんで、すみませーん。

宮前 すみませーん。かわいくてー。

長尾 はあ。

初山 おー、やつぱり屋上はいいねー。宮前ちゃんも映ちゃうわー。

宮前 そうですかー。

初山 じゃあ、撮っちゃおう。撮っちゃおう。そう、こっち来てー、そうーそう。大衆を誘惑しちゃう感じで。

長尾 あー。

初山 うわー最高最高、え？あ、撮影なんでー

宮前 撮影なんでー。

長尾 いや、こっちもその、ここで大事な用があつて。

初山 大変ですねー、がんばっちゃってくださいー。いやー、たまらんー！かわいい！

宮前 がんばってくださいー。

長尾 あー！

初山 はーい。
 長尾 あの！
 宮前 はーい。
 長尾 私たちここで今から死ぬんです！
 三田 ちよつと！
 初山 あ、こもつと顎上げちゃう感じで、うん。かわいい。
 長尾 死ぬんです！
 初山 死ぬんですかー。
 長尾 え？
 初山 それは、大変ですねー。
 宮前 お疲れ様でーす。
 初山 え、今の表情、まじかわいい。
 宮前 うれしい。これは？
 初山 のー！いい！
 宮前 じゃあ、これは？
 初山 なー！マーベラス！
 長尾 つけ入るすぎがない！
 初山 あれ、今、死ぬって言いました？
 長尾 はい。
 初山 なんて運がいいんだ！よし、じゃあ、動画撮っちゃおう。
 宮前 はーい。
 初山 あのーすみません、ちよつとお願いがあるんですけどー。
 長尾 なに、急に。
 初山 ちよつとだけ、協力してくれませんか？撮影の。
 長尾 え、撮影？
 初山 あ、はい。実は、私、こーいうもので

初山、三人に名刺を渡す。

長尾 あ、はい。宮前たま子ファンクラブ会長…

初山 初山優希といいます。実は、宮前なんですけど、こんなにかわいいのに、なかなか芽が出なくて、
こんなにかわいいのに。

宮前 かわいいのに。

栗谷 あ、はい。

宮前 かわいくないですかー。私。

長尾 あ、はい。

宮前 かわいいですよー。

長尾 とんでもねえ女だな！

宮前 え、とんでもなくかわいい？

長尾 なんなのさー（栗谷にささやき声で）

栗谷 いや、嫌いじゃない。

長尾 あっそ。

初山 私はファンクラブの会長として、宮前たま子、通称たまちゃんを世に知らせたいんです。

長尾 はあ。

初山 だって、どーです？このかわいげ！

宮前 にやーん。

初山 それでいて、どーです？このなまめかしさ！

宮前 にやあーん。

初山 そして、この癡猛さ！

宮前 にやーん！

初山 この三位一体かなった姿！だれがどーみたって、アイドル界の頂点にいたべき素材なんです。たまちゃん
は。

長尾 はあ。

初山　だのに、だのに！なぜか大衆には伝わらず……。そんなとき見つけたんです。MNKの自殺防止キャンペーン動画の募集。下衆な話かもしれませんが、これをきっかけになんとか売り出したいと……。

栗谷　協力させてもらうよ！

長尾　え？

栗谷　協力させてもらうよ。

長尾　かつこわる。

栗谷　なんだかわからんが、君の熱意に心が動かされたよ。やろう。

長尾　え、まじで？

栗谷　お前もどうだ？

長尾　えー、どうしようっかなー。どんな撮影なんですかー？

栗谷　乗り気じゃん。

初山　たまちゃんがリポーターで、自殺を考える等身大の高校生をみなさんに。

長尾　えー、インタビューかよー、やります。

栗谷　いいね！おまえは？

三田　ちよつと、あたしはいやよ。

長尾　えーまた？もう死ぬんだからいいじゃないのよ。

三田　はあ？なんで、邪魔された上に、ビデオに撮られなきゃいけないのよ。

長尾　ええやん？

三田　は？

長尾　ええやんか。のう？

栗谷　せや。

三田　なんでもいいわ。

初山　じゃあ、さっそくとらせてもらおうか。

宮前　はい！

初山、ビデオカメラとマイクをカバンから取り出す。

初山　じゃあ、宮前ちゃん、これ持つて。

宮前　はい。

初山　よしじゃあ、行くよ。はい、3、2、1

宮前　（声色を完全に変えて）はい。みなさん、こんにちにゃんにゃん。自己紹介しますにゃん。手拍子お願いしますにゃん。生まれた場所は（多摩センター）。ピューロランドの（多摩センター）センターってなに？（多摩センター）（小田急、京王（多摩センター）あれー誰か困ってるなー。（小田急と京王、どっちに乗ればいいのよー）そーんな時は、（よおーーお）あたしの背中に乗りな。親分肌の超絶美少女、宮前たま子だにゃん。ということで今日は、私も通っている江名之浜高校の屋上に来ています。なんと、なんと、みんなきいてにゃん。実は、いま自殺をしようとしてるひとがいまーす。

初山　良い感じよ。

宮前　さっそく、インタビュしてみるにゃん。こんにちにゃんにゃん！

長尾　あ、にゃんにゃん。

栗谷　にゃんにゃん。

宮前　なんで、死んじゃうんですか？

長尾　あ、えーと、ちょっと、楽しくなくなつて。

宮前　えー！そうなんですか！つらいですね。…あなたは？

長尾　振られたんで。

宮前　えー、つらいですわそれは。恋は魔物ですもんね。

長尾　はい。

宮前　どうやって死ぬんですか？

長尾　えつと、飛び降りようかなつて。

宮前　あなたは？

栗谷　あー僕も。

宮前　えーそれはだめだよう。だめだめだめだめ、絶対だめにゃん。

長尾　あ、はい。

宮前　だって、だって、友達とか家族とか、なんか、ほうぼうの人が悲しむし、何より…血が出るから。。。怖いんだもん。血。だからだーめにゃん。

長尾 え、あ、はい。

宮前 絶対絶対絶対やめてね！全国みんな、自殺なんか、ぜーたいダメだよ！！以上、宮前たま子の自殺防止動画でした！でわみなさん、まったねー、いや違う、まったにやーん。

初山 はいカット！いいね！かわいい！

宮前 お疲れ様でしたー。

長尾 情緒が…ねえ？

栗谷 ああ。

初山 いやーほんと協力ありがとうございました！良いもの撮れましたよー。特に、この夕陽。いいじゃないですかー。ちょうど、入射角がこつちでしょ？いい絵、撮れましたよ。

栗谷 君もこの入射角の良さがわかるのかい？

初山 もちろん、たまこちゃんの頬のあたって、きれいだわ。

栗谷 きみ、もしよかったら、付き合わないか？

初山 お断りしまーす。

栗谷 だよーねー。

初山 じゃあ、いこつか。今度はブル。水着撮影だよ！

宮前 やーん、恥ずかしいにやん。

初山 その恥じらいの感じがいいの！最高の！じゃあ、みなさん、お世話になりましたー。

宮前 死ぬのなんてほんと冗談やめてくださいねー。

三田 いや、冗談なんかじゃ…

宮前 あ、でも、私は自分が納得するなら死んでもいいかなー。じゃあねー。

三田 なによ。

初山 では、頑張ってくださいねー。

長尾 あ、はい。

栗谷 うん、なんか頑張るねー。

2人、談笑しながら、写真撮りながら上手にはける。入れ違いに、小向がいらした様子で、入ってくる。

小向 邪魔だ！どけ！

宮前 やーん。

初山 なんだあんた。

小向 邪魔だ。

宮前 こわいよ。

初山 やだねー。脳みそ筋肉だから。

小向 なんだと？

初山 もういこ。

宮前 うん。

小向 はー。

小向、上手手前でうなだれて座る。

小向 あー、くそ！

栗谷 また、なんか変な人来たね。

三田 もういい加減にしてよ。次から次から。どうなってんのこの高校。

長尾 まあまあ。あのー…あのー…

塚越、上手から入ってくる。

塚越 先輩！

小向 来るなよ！

長尾 そんな雰囲気じゃないんですけどー。

栗谷 ちよっと、様子見てみようぜ。

塚越 先輩…大丈夫ですか？

小向 大丈夫だよ。

塚越 そんな風には見えません。

小向 大丈夫だって。すぐよくなるから。

塚越 先輩……もう無理しなくていいですよ……

小向 なにいつてんの。あたしが居なくて、チームはどうするの？

塚越 はい……

小向 あたしの代わりはいないの！ほら早くやるわよ！リハビリ！

塚越 でも、先輩。もう、バスケできるような体じゃ……

小向 大丈夫だよ！

塚越 大丈夫じゃないですよ！先輩、こんなにリハビリ続けてたら、壊れちゃいますよ。

小向 いいんだよ！壊れたって！全国に連れてくって、約束したろ？

塚越 でも、先輩……うう。

小向 泣くなよ……バカ。

塚越 先輩……先輩……

小向 で、持ってきたのか？

塚越 はい、少々お待ちください。

塚越、上手からバスケットボールを持ってくる。それを見て、小向は、おびえ、狂ったように逃げ回る。

小向 ヲウ、ウオオオオアアア——！！！！

長尾 え、なに？

小向 きぎよぎえぎや——！！！！！！

栗谷 狂ったのか？

小向 どじよぞじよしゃざ——！！！！！！

塚越 もうやめましょ？先輩、もう先輩の壊れる姿みたくないです。

小向 はあ、はあ、はあ、いいからやってくれ。

塚越 でも

小向 いいから、

塚越 はい……(ボールを近づける)

小向 んんんんおおおお……!!!(うずくまる)

長尾 なに、ボール怖いのか？

塚越 そうなんです。先輩、ボール恐怖症になってしまったんです。

小向 はあ、はあ、はあ……情けない。

栗谷 致命的だな。バスケット部にとっては。おい、ほんと大丈夫か？

栗谷、小向に寄り添う。

小向 はあ、はあ、大丈夫だ。

栗谷 そうか……で、こんな時になんなんだけども、付き合わない？

小向 ごめんなさい。タイプじゃないし、キモイ。

栗谷 振られたよ。

三田 バカなんじゃない？

長尾 で、なんでこんなことになったの？

塚越 あ、はい……。あ、これ、持つてもらえますか。

長尾 うん。

塚越 実は、10日前、公式戦があつて、そのとき、相手の3ポイントシュートを、顔面でブロックしてしまったんです。

栗谷 シュートを？顔面で？

塚越 両腕を怪我していたので。

栗谷 交替してやれよ！

塚越 いや、うちの部、全員で5人なんです。だから、替わる人もいなくて……

長尾 棄権したらいいのに。

塚越 いや、でも先輩が、それだけはいやだって。試合には勝ったんですけど……

長尾 勝ったんだ。

塚越 次の公式戦まで、あと3日。もう、ほんとどうしたらいいか……

栗谷 そうだな。
 長尾 なんかにスポーツやってた？
 三田 急に何よ。
 長尾 いや、スポーツ。
 三田 バスケ。
 塚越 え！
 三田 いや、こっちに転校するまではやってた。
 塚越 じゃあ、即戦力じゃないですか！ぜひ、うちの部に！
 三田 入るわけないでしょ。部活なんて。くだらない。
 塚越 え？
 三田 くだらないのよ。仲間とかチームとか。てか、気持ち悪い。
 塚越 そんな。
 長尾 さすがに言いすぎだよ。
 三田 気持ち悪いのよ！
 塚越 そうですか。でも、私たちは、5人で、夢かなえたいんです。それだけは譲れないんです。
 小向 ごめんな。こんな思いさせてるのに、ボールが怖いなんて。ほんと情けない。もう、死んでしまいたい。
 塚越 そんな：死ぬだなんて。
 小向 こんなんでさ、もう死んだ方がまだだよ。
 長尾 え、じゃあ一緒に死ぬ？
 小向 え？
 栗谷 そうだよ。俺たち、今死のうとしてるんだよ。
 小向 そうなのか
 長尾 一緒に死んじゃおつか。
 塚越 やめてください！先輩、目を覚まして。
 長尾 ねえ、4人になりそうだよ。
 三田 あっそ。勝手にすれば。

小倉、上手から入ってくる。

塚越 小倉。

小倉 塚越。先輩、どう。

塚越 見ての通り。

小倉 そっか。

塚越 もってきた？

小倉 うん。これで、なんとか。

長尾 あのー。

塚越 ああ、部員の小倉です。

小倉 うっす。

長尾 あのさ、実はね、私たちね、ここだね。

小倉 塚越、さっそく、試してみよ。

長尾 あ、は、はい。

塚越 おっけー。

小倉、袋から「パラオの国旗」を取り出す。

小倉 まず、これ。

塚越 いいじゃん。

長尾 なにこれ？

小倉 パラオの国旗です。

長尾 なぜにパラオ？

小倉 ボールに似てるんで。ほら。丸いんで。ここが。

長尾 あー、ここがね。それで？

小倉 少しずつ丸いものに慣れてくれば、きっとボールにも触れるんじゃないかって。

長尾 あーそう。日本ので良くない？

三田　　ばかばかしい。

小倉　　：…よし、じゃあやってみよう。

塚越　先輩！先輩！リハビリしましょ！

塚越　先輩、顔上げてください。

小向　おう…（おずおずとゆつくり顔をあげて驚く）ひえ！

塚越　先輩、落ち着いてください！先輩！先輩！パラオです。

小向　パラオ…パラオ…パラオか！

塚越　パラオですよ！

小向　なんだパラオか！大丈夫だ！

小倉　　一歩前進しましたね！

小向　おまえら、ありがとうな。

小倉　　次行きましょう！

小向　　おう。

塚越　先輩、目つむってください。

小倉　　次は

小倉、九谷焼の皿を取り出す。

小倉　　これ

塚越　いいじゃん。

長尾　なに皿？

小倉　　土器です。

長尾　土器？土器？

栗谷　しぶいね。

小倉　博物館から無理言って借りてきたんです。

長尾　あーそう。普通の皿で良くない？

三田　　あほらしい。

小倉 はい。じゃあやろう。

塚越 うん。先輩！目あけてもらっていいですか。

小向 わかった。

塚越 ちょっと待ってください。これ、結構、難易度高いです。

長尾 高いんだ。

小向 わかった。

小倉 がんばってください！

塚越 じゃあ先輩。

小向 (おずおずとゆっくり顔をあげて驚く) ひえ！

塚越 先輩！落ち着いてください！良く見てください！

小向 はあ、はあ、はあ。

塚越 土器です。土器です。

小向 土器…土器…弥生土器か！

塚越 弥生土器ですよ！

小向 なんだ弥生土器か！大丈夫だ！

小倉 二歩進みましたね！

小向 おまえら、ほんとありがとうな。

小倉 次行きましょう！

小向 おう。

塚越 先輩、目つむってください。

小倉 次は…

小倉、袋から「テニスボール」を取り出す。

小倉 これ

塚越 いいじゃん。

栗谷 やっとボールらしいもんが出てきたな。

小倉 はい。じゃあやろう。

塚越 先輩！目あけてもらっていいですか。

小向 わかった。

小倉 がんばってください！

塚越 じゃあ先輩。

小向 (おずおずとゆつくり顔をあげて驚くが、すぐさま) あ、これは大丈夫だわ。

塚越 よかったー！

長尾 規準が分からない。

小向 大丈夫、大丈夫！

小倉 先輩、十歩は進みましたね！

小向 おまえら、ありがとうな。

塚越 では、先輩。いよいよです。

小向 おう。

塚越 先輩、目つむってください。すみません。それを。

長尾 ああ、はい。

塚越 先輩。

小向 分かってる。

塚越 用意はいいですか。

小向 いいよ。

塚越 では…目を開けてください。

小倉 先輩…

小向 (おずおずとゆつくり顔をあげて驚く) ひやあああああああ！やっぱり無理ー！…！

小向、上手に走り去る。

2人 先輩！先輩…。

長尾 ああ、行っちゃったね。

栗谷 そうだな。

三田 もうやめちゃえば？やめなよ。部活なんて。つらい思いするだけじゃん。ちよつと

長尾 いや、きつと先輩は立ち直ります。

小倉 うん。絶対。

塚越 なんてそんな事言えるの？今の見たでしよ？治らないわよ。

三田 いや、治ります。いや、治して見せます。ね？

塚越 うん。

小倉 なんて、なんでそこまで…

三田 好きだからです。先輩が。バスケが。

塚越 5人でコートに立ちたいんです。他の誰でもダメなんです。だから、ね？

小倉 うん。じゃあ、失礼します。

塚越 あ、うん。

長尾 もし、バスケしたくなったら、体育館来てくださいね。待ってますから。

塚越 行くわけないでしょ。

三田 いつか、一緒にバスケしましょうね！

小倉 ……しないわよ

三田 では。

小倉 塚越、小倉、上手にはける。

栗谷 なんつーかさ、なんつーかさ、青春だよな。

長尾 うん。

三田 ほんとロマンバカだね。

栗谷 ロマン派といってくれ。

長尾 きも。でーどうする。もう邪魔される前にさ、早く飛び降りようよ。

三田 だから、なんであんたたちと。

栗谷 いいだろうよ。なあ？

長尾 うん。そろそろ心決めてよ。

三田 あんたらがいる限り決まらないわよ。

長尾 何でそういうこと言うかなー。とりあえず、靴脱がない？

栗谷 いいね。靴脱ごう。あ、やべ、遺書持ってないわー。

長尾 あ、そういえばあたしも。紙とペンもってる？

三田 持ってないわよ。

長尾 じゃあ、その遺書にさ、私たちの名前も書いてくれる？

栗谷 いいねー、連名ってことで。

三田 ほんと私帰るね。

長尾 ちよつと、まって…

小杉、上手から入ってくる。

小杉 ごきげんよう。

小杉、ランチマットをひろげ、座り誰かを待っている。

長尾 あ、ごきげんよう。ってだれ？

栗谷 知らん。

長尾 なんだよ、また誰か来ちゃったじゃない。

栗谷 そうだよ。

三田 関係ないでしょ。

長尾 また、あたし声かけるの？

栗谷 できれば

長尾 もう、変な人ばかりでちよつとやなのよね。

栗谷 いいから。

長尾 あの一。

小杉 ？

長尾 えー、ごきげんよう。

小杉 ごきげんよう。

長尾 今日は、こちらで何をし遊ばされるんですの？

小杉 ああ、ここで、夕食をとるかと思ひまして。

長尾 へえ、ああ、そうですかそうですか…：夕食だつて！

栗谷 昼ならまだしも、夕食なんて屋上で食うか普通。

長尾 えー、あ、そうですか、夕食をあそばれるんですね。ああ、はいはい。

小杉 そうです。あと、恥ずかしいんですけど、思いを寄せている方もいらつしやるんです。

長尾 あら、まあそうですか。へー。

栗谷 なんだよ。彼氏いるのかよ。

小杉 もう少しで来るはずなんです…

田尻、上手から慌てて入ってくる。

田尻 ごめんね、おそくなつて。まつた？

小杉 うううん。全然。

田尻 ごめんね。階段の数、数えてたら、遅くなつちやつた。

小杉 いいよ。

長尾 いいんだ。

小杉 お腹は？

田尻 へこへこだよ。

小杉 よかつたー。いま用意するね。

小杉、バックから、木桶とタッパ二つとペットボトルを取り出す。木桶にペットボトルの水を注ぎ、タッパのふたを開け準備する。

栗谷　なんて羨ましいんだ！くそ！おれも、彼女の弁当食いてえ。
長尾　おまえは無理だよ。
栗谷　あ？なんだと、ちんちくりんが！
長尾　言ってる。ん？弁当じゃなさそうだけど。

小杉、バックから寿司をのせる木板をだし、寿司を握りだす。

長尾　は？

栗谷　え？

長尾　屋上で寿司？

栗谷　初めてみた。

小杉　（手のひらを入念にみて、笑顔で）指毛良し！

田尻　かわいい。

小杉　で、なにがいい？

田尻　じゃあウニ！

小杉　だめだよ！。最初は白身でしょ？この前教えたじゃん、蹴り飛ばすよ。

田尻　ごめんごめん。

栗谷　厳しいな。結構。

長尾　うん。

栗谷　でも、嫌いじゃない。

長尾　あつそ。

小杉、凄まじい手際で、寿司を握る

栗谷　な、なに！！

長尾　おいどうした。急に。

栗谷 う、うそだろ。

小杉 うおりゃ……！はい。アマダイ。

田尻 ありがとう。

栗谷 あ、あの握り方は、

小杉 塩降ってあるから、そのままいいよ。

田尻 うん。おいしいよ！

小杉 うれしー！

栗谷 小手返し一手……

長尾 あ、なに？

栗谷 小手返し一手だよ。

長尾 なにそれ。

栗谷 いいか、寿司つてのは本来的に、本手返し、小手返し、立て返しの三つの握り方で握るんだ。
へー。

栗谷 その中でも、小手返しはオーソドックスではあるが、王道だ。

長尾 で？

栗谷 だが、その小手返しは最低でも4手は寿司に触るんだ。

長尾 これ長い？

栗谷 手数が増えれば、それだけネタの鮮度は落ちる。

長尾 そうね。

栗谷 だが、あの子はな、あの子はな、寿司に触れる時間を極限まで減らした伝説の、小手返し一手で握るんだよ。

長尾 あー、コーラ飲みたい。

栗谷 信じられないことだ。一手だぞ、一手で寿司を握ってやがるんだ！

小杉 次はなにがいい？

田尻 じゃあウニ！

小杉 だめだよー。白身の次は赤身でしょ？この前教えたじゃん、蹴り飛ばすよ。

長尾 きびしっ。

田尻　ごめんごめん。
栗谷　俺はもつと責めてほしいけどね！
三田　きも。
小杉　うおりや！！！！はい。マグロ。
田尻　ありがとう。
小杉　塩降ってあるから、そのままでもいいよ。
長尾　また塩かよ！！いきった大学生か！
栗谷　なにに怒ってるの。
田尻　うん、おいしい！
小杉　うれしい！今日はね、大間産じゃ芸がないから、思い切って勝浦産にしたの。
田尻　なんだかわからないけど、おいしいよ！

上手から、新城が入ってくる。

新城　ごめん、おまたせ、待った…誰、この子？
田尻　いや、その、あの、違うんだ。その。
新城　誰？
長尾　また来たよ。
栗谷　どうなってるんだ？
田尻　いや、その、その、あの…
新城　誰なの？
小杉　小杉と申します。
新城　へー、ああそう。で、どのような「関係で？」
小杉　恥ずかしいんですけど、お付き合い…
田尻　んあー違うんだ。
新城　へー、付き合ってるんだ。どういふこと？
田尻　いや、これには深い深い訳があつてね

新城　じゃあ、聞かせてもらおうじゃない。どーぞ？

田尻　す、すみませんでした！！！！

新城　何謝ってるのかわからないんだけど。

田尻　ごめんなさい、ごめんなさい。

新城　まさか、二股かけられてたなんてね！

田尻　ひ！

栗谷　なんだと！二股！あの男が！聞き捨てならないな！おい、お前！何てことしてんだ、こら！
新城　ちよつとだまってて。

栗谷　あ、すみません。

長尾　怒られてんの。

栗谷　何度も言うが嫌いじゃない！

小杉　あのすみません。いまいちわからないのですが。どういうことでしょうか。

新城　女狐かと思ったら、とんだ子猫ちゃんだねえあんたは。こっちは一年前から付き合ってるのよ。意味わかる？あなたは浮気相手なの。

小杉　浮気……本当ですか。

田尻　いや、違う違うがちがうんだ。

新城　ん？あんた、それ……

小杉　あ、はい。寿司です。

新城　あんたが握ったのかい？

小杉　はい。

新城　ふん、寿司なんてしゃらくさいもん作りやがって。見てな。

新城　おもむろにバックからガスコンロとてんぷらなべと油をとりだし、てんぷらを揚げ始める。

新城　鍋が温まるまで待つて。

しばし待つ。

長尾 この時間何？ていうか、やめましようよ。その、料理対決みたいな感じ。

新城 対決よ！

長尾 いや、だって、ねえ？

栗谷 とりあえず、君。なんでまた浮気なんてしちゃったわけ？

田尻 いや、浮気のもりはないんです。そういうんじゃないくて。

新城 どういうことよ。

田尻 ぼく、選べないんです。

長尾 は？

田尻 どっちも好きなんです。小杉さんも新城さんも。

栗谷 おまえは頭おかしいのか。どっちか選ぶんだよ、普通は。

田尻 でも、どっちも大切なんです。二人を選ぶなんて僕には…

栗谷 なにを何をいつてるのさ！ええ！

田尻 小杉さんは、いつも僕を厳しくも優しく接してくれる。新城さんは、厳しいけど、僕にしか見せない姿を見せてくれる。好きなんです。この二人となると、僕しあわせなんです。それだけでいいんです。

栗谷 おいおいおい、何を言ってる…

小杉 そういう人なんです。この人。

栗谷 え？

新城 まあね。

栗谷 はえ？

小杉 うすうす気づいてました。彼女がいること。でも、私も田尻さんが好き。彼、こんな風に見えて、私がつらい時、そばにいてくれました。ただ隣に居てくれるだけなんですけどね。でも、そんな田尻さんのひたむきさにどうしても心が動くんです。

新城 私もうすうす気づいてた。浮気されてるなって。でも、田尻はどうしようもなくお人好しで、だれもほつておけないたちだから。そういうところが、私もどうしようもなく好きだし。

栗谷 どうなってんの。

小杉 だから、こんな関係でも私は。

新城 私もよ。

田尻 ごめんね。ほんとごめん。でも、こんな僕でもいいかな。

小杉 いいですよ。

新城 いいよ。

長尾 どうなってるんだ…

三田 あんたたち、本当にいいの？

新城 いいんです。どんな彼でも、好きですから。

田尻 新城さん。

小杉 私も。

田尻 小杉さん。

新城 逆に、どんな私でも、私を田尻は好きでいてくれる。

小杉 そうですね。どんなわたしでも。

三田 どんな私でも…

栗谷 弟子にしてください！

長尾 はい？

栗谷 田尻さん、弟子にしてください！

長尾 おい、どうした。

栗谷 い！
こんなに人に慕われるなんて、きつとなにかあるはずだ。田尻さん、その男の生き方を学ばせてほし

い！

長尾 いや、ただのどっちつかずでしょ。

栗谷 おねがいます！

長尾 いや、浮気してるからね。

田尻 僕に何ができるかわかりませんが、いいですよ。

栗谷 いいんですか？ やった！じゃ、そういうことで、死ぬのやめるわ。

長尾 ええ！…まじ？

栗谷 まじもまじ。なんか目標できたっていうかなんていうか。悪いな。二人でやってくれ。

長尾 えー。

栗谷　じゃあ、行きましょ。

新城　じゃあ、片付けますか。

田尻　そうだね！あ、手伝ってもらえますか？

三田　なんであたしが。

田尻　いいからいいから。片付け手伝うんで。

三田　え？

小杉　ありがとうございます。

栗谷　あー、清々しいわ。じゃあ、おまえら、元気でな。

長尾　ねえ、止めなくていいの？

三田　なんで、止めなくちゃいけないのよ。

長尾　まあ、ね。

三田　関係ないわよ。

長尾　うん。

栗谷　じゃあな！

みんなの荷物持ちを栗谷が担い、談笑しながらはける。

長尾　2人になっちゃったね。いよいよ。

三田　うん。

長尾　なんかいろんな人、来たね。

三田　ふつ。

長尾　どうした？

三田　なんか、馬鹿みたい。

長尾　何が。

三田　この高校、変だよ。

長尾　そうかな。あたしは好きだけど。なんかみんな楽しそうだし。

三田　そうね。

長尾 いいよね、気楽で。
三田 うん。
長尾 あんなんでも生きてるんだから。ふつーに。
三田 そうだね。
長尾 で、どうする？
三田 帰rinaよ。
長尾 帰る？
三田 それは、まあ、うん……。
長尾 ねえ、なんで死ぬの？
三田 別にいいじゃん。
長尾 やっぱり転校したから？
三田 何で知ってんの。
長尾 さっき言ってたじゃん。女バスの子来た時にさ。バスケやってたって。
三田 ああ。まあね。
長尾 なじめない？この学校。
三田 なじめない。ていうか、なじみたくないっていうか。
長尾 なにそれ。
三田 やっぱり、ここは東京は私のいい場所じゃない気がするし。息が詰まるの。
長尾 なんて。
三田 みんな、先生もクラスの子も、おばさんも、みんな私に気を遣う。これがずっと続くと思うと、嫌になっちゃうった。でも。。。
長尾 でも？
三田 なんかさ……
長尾 やめない？死ぬの？
三田 え？
長尾 やめよ？死ぬの。
三田 ……

長尾 いや、なんかさ、へんな人いっぱい入ってきてさ、気も失せたっていうか。

三田 ……実は私も。気も失せるわよ、こんなあとにさ。

長尾 そうだよな。今日はもう帰らない？

三田 うん。そっだね。なんかいろいろごめん。ちよつと冷たかった？

長尾 だいふね。でも、あなたは、きつと優しい人なのかなって感じてた。

三田 そう。こつという自分を作るのにも疲れた。

長尾 そつか。あたしね、L組の長尾時子。よろしくね。

三田 うん、私、A組の……

桜本と浮島が入ってくる。

浮島 いた！三田さん！

桜本 あやの！何してるの！こんだけ心配させておいて！

長尾 えー、なんでよ。これじゃ、計画が……

浮島 何いつてるの？

長尾 いや、別に……

三田 関係ないでしょ！

桜本 担任の先生もどれだけ心配してくださったか。

三田 知らないわよ。

桜本 これ、家にあつたけどなに？

三田 ……

桜本 なに？

三田 ……遺書。

桜本、遺書を破る。

照明、「夕焼けの屋上」クロス完了

桜本 バカじゃないの！死ぬなんて。お姉ちゃんやマサルさんに申し訳ないと思わない？

三田 別に……

桜本 別にじゃないわよ……。ほんと、心配したんだから……。ほんとに……

三田 心配なんていらないわよ！

浮島 三田さん。

三田 誰が心配しろなんて頼んだ？勝手にによ。

桜本 あやの……

三田 その人もいつも何かあると私に声かけて来て

浮島 それは、あなたの様子が……

三田 そういう気遣いとかもいいの……。もうほつといてよ。私なんか。

桜本 あやの。やっぱり帰りたいの？福島に。

三田 帰りたいわけじゃないでしょ！あんな場所！

桜本 そんなこと言わないで！

三田 誰が帰りたいのよ。聞きたくもない。

桜本 あなたの住んでた場所でしょ！なんでそんなこと言うの！

三田 うるさい！だまって！

桜本 あやの……なんでそんな風になっちゃったの？小さいころ、あやのは、元気でいつも笑って……

三田 もうやめてよ。

桜本 私と住むの嫌になった？

三田 そういうことじゃないから。

桜本 ああね、あやのの辛い気持ちはわかる。私だって辛い。

三田 やめてって。

桜本 たくさんの人が亡くなったし、大切な人も失った。私だってあやのと同じよ。私だって辛い。

三田 ……

桜本 でもね、だからこそ、私たちは生きなきゃだめなの。みんなの分も一生懸命生きるべきなの。

三田 …

桜本 それなのに、それなのに、死ぬなんて……そんなことお姉ちゃん、いや、あなたのお母さんが聞いたらどう思う？ 悲しむわよ。絶対。

三田 …

桜本 お姉ちゃん。あなたのこと、ほんとうに愛してた。あなたを産んだときも天使みたいだって。

三田 …

桜本 あやのにはしっかり生きてほしいと思ってるはずよ。お姉ちゃんならきっと。

桜本 みんなの分もしっかり生きなきゃ。あなたはね助かったの。生き残ったの。きっと、お姉ちゃんが助けてくれたの。そう思っただけ命を大事にしてよ。きっとね、みんなあなたを天国から見守って…

長尾 あのー。

桜本 え？

浮島 ちよつと長尾さん。

長尾 あのー、お取り込みのところすみませんけど。

桜本 どなた？

長尾 今、私たちちよつと死ぬところなんで、そのー、邪魔しないで欲しいんです。

三田 え。

浮島 長尾さん！

長尾 ねえ？ あやのちゃん？

三田 うん。

長尾 だから、あの、どうかいつてもらえますか？

桜本 あなた、なんなの！

浮島 ちよつと長尾さん、変なこと言わないで

長尾 あー、わかりました。あつちで死ぬんで。あやのちゃん、いこ。

長尾、三田の腕をつかまえて、下手に移動しようとする。

浮島、三田を捕まえて、止める。桜本も同じく止めに入る。

浮島 何考えてるの！やめなさい！

桜本 どういうつもりなの！

長尾 あー、めんどくさいから、ここにしよう。

長尾、三田の腕を引っ張りながら、目の前で飛び降りようとする。

浮島 やめなさい！なにやってるかわかってるの！

桜本 もうやめて！

もみ合う。

長尾 いい加減にしてよ！

長尾、二人を振り払う。

長尾 誰もこの子と話聞いてないじゃん！

桜本 え？

長尾 さつきからおばさんも一人でべらべらしゃべって！先生も、止めるだけで！言い訳も何も聞かないじゃん！

浮島 それは、

長尾 いつもそう、勝手に色々押し付けて。怖がってるのわかりますか？少しくらい言い訳させてあげてよ。

この子一人で抱え込んで、苦しんで、まだ追い詰めるの？

桜本 そんなつもりは

長尾 この子、毎日ここにきてます。ここにきて思いつめて、死のうとしています。

浮島 え！？

三田 なんでそれ知って(る)の…

長尾 毎日ですよ。毎日！先生もおばさんも知らなかったんですよ？

桜本 毎日……
 長尾 見えてますか？
 桜本 え？
 長尾 おばさん。見えてますか？あやのちゃんのこと。
 桜本 ……
 長尾 先生も。
 長尾 ちゃんと見てあげてください。
 桜本 あやの……
 長尾 お願いします。話、聞いてあげてください。ちょっといいんです。お願いします。
 2人 ……
 長尾 あやのちゃん。
 三田 ……
 長尾 あやのちゃん。
 三田 うん。
 長尾 私たちさ、いまからしぬじゃない？
 三田 ……え、うん。
 浮島 ちよつと！
 長尾 だから全部言っちゃおうよ。全部さ。この際
 三田 でも。
 長尾 どうせ死ぬんだから、あたしたち。
 浮島 長尾さん！
 長尾 言いたいこといつてさ。ねえ、おばさん。
 桜本 あやの……
 三田 でも……
 長尾 ほら。
 三田 言いたくな……
 桜本 あやの。

三田 え。

桜本 だって、らん。いいから。私は大丈夫だから。

三田 …… 律子おばちゃん。ごめんね。心配させてごめん。わたしね、あの日から、全部なくなっちゃったあの日から、いつともね、責められてるみたいなの。

桜本 ……

三田 東京に避難してきて、リツ子おばちゃんのとこで暮らして。学校にも行き始めて。時間もどんとたつていつて。普通の生活になつていつて

桜本 ……

三田 でも、おばちゃん。みんなの分なんて生きられないよ。

桜本 そんな…

三田 ここにいることが怖いの。わたしがここにいること自体がこわいの。もう、消えたい…消えたいよ。

桜本 あやの…(ちかづく)

長尾 待つて。

三田 おばちゃん。怒られると思うけど…わたし忘れたい。全部わすれたい。もうなかったことにしたい！

桜本 ……

三田 …… 忘れて、全部忘れて…戻りたい。でもね、みんな忘れさせてくれない。かわいそうだって視線。おばちゃんもそう思うでしょ？みんなも、福島つて言っただけで、つらかったね、とか、薄気味悪そうに…それにあのときは大変だったね…って。春が近づくとみんな思い出したみたいに言い出して。テレビも新聞もね、私を責めるの。これを次の世代にとか、震災を忘れないとか。みんなよ、みんなほじくりまわして！誰も、誰も忘れさせてくれない。そう思っちゃダメ？忘れたいの！リツ子おばちゃんも、先生もクラスもみんなみんな…。もう忘れさせてよ。

桜本 あやの、そんなこと。。。

三田 だから、死ぬの。ねえ、おばちゃん。ゆるして。謝るから。ね…みんな…許して。忘れさせて。

長尾 よし、じゃあ、あやのちゃん、死のう！

三田 ？

長尾 死のうよ。

浮島 ちよつと…

長尾 飛び降りちやおう。ね？

浮島 あなたいい加減に……

桜本、浮島を制する。

浮島 え？

長尾 死のうね。明日！

三田 え……

長尾 そ。今日はさーほらーちよつと色々あつたでしょ？だから、明日！
でも、

長尾 もし明日がダメなら、明後日に。明後日がダメなら3日後に。

三田 ……

長尾 時間かかってもいいじゃない？私、付き合うからさ。

三田 ……

長尾 一緒に、死のうね。いつか。

三田 ……うん。

長尾 絶対死のうね。

三田 うん。

長尾 絶対絶対いっしょに死のうね。

三田 うん……

長尾 約束だよ。

三田 うん

長尾 じゃあ、帰ろ？準備しなきゃだし。ほら、新しい遺書も用意してさ。ねえ、おばさん？

桜本 そうね……準備しましょ……

長尾 お、話がわかるね。じゃあ、あやのちゃん。今日は、帰って。

三田 うん。おばちゃん。

桜本 帰りましょ。

長尾 先生も。

浮島 ああ、はい……帰りましょ。

三田 はい。

長尾 じゃあ、またね。

三田 うん。

長尾 明日ね

三田 うなづく

長尾 あ、あしたは化学室にしよ！へんな薬ありそうだし。

三田 （振り返って）ありがと。また明日ね。

長尾 あいよー。じゃあねー。ばいばい。

三田、桜本と浮島に囲まれながら、上手にはける。

はけぎわで、桜本、長尾に顔を向けて、礼をする。そしてはける。

長尾、笑顔で見送る。

音響『The Five stairsteps「O-O-H Child」』

長尾、遺書をひろい、夕陽を見て黄昏ている。

三田、桜本、浮島以外の全員が、そろそろ入ってくる。

長尾 お、おつかれー。

栗谷 おつかれーじゃねえよ。ひやひやしたー。

管 そうですよ。もう。

長尾 え、結構うまくいってなかった？

小向 全然だよ。想定外に先生とか来ちゃうしさ。ていうか、なんだよこの本。無理がない？

初山 そうそう、ほんとに自殺止める気なんてあったの

長尾 おおありよ。

小杉 私は楽しかったよ。

新城 ああ、あたしも。

堰 比較的。

小倉 でもさ、このあとあの子、大丈夫かな。

宮前 そうだよな。今日はなんとかあったけどさ。

長尾 大丈夫だよ。

塚越 そう？

長尾 うん。てゆうか、明日やバかったら、また手伝ってもらおうから。

栗谷 いや、もう無理があるだろ？三田さんがさ転校生だからまだいけたけどさ。

長尾 あたしたちが演劇部だつてバレたら、終わるね。

管 長尾先輩が言わないでくださいよ。

長尾 ああそう？一応、あしたの台本も考えてあるんだけど。

全員 いやいやいやいやー。

長尾 とか言つて、楽しかったんでしょ？

小向 まあ、ねえ。

初山 うん、まあ、いいことしたかなって感じ。

長尾 そうでしょ。

全員、夕焼けを見つめる

宮地 きれい。

新城 うん。

田尻 恐くないの？

小向 何が？

田尻 夕陽、丸いじゃん？

小向 こわくねえよ。

長尾 世の中にさ、自分に関係のないことなんてないよね。

栗谷 うん。

管 あ、(お腹が鳴った風)お腹減った。

長尾 どうか食べに行く？

新城 いいね！あ、駅前にケーキ屋さんできたの知ってる？

全員、談笑しながら上手にはける。

幕

照明、「夕焼けの屋上(中あたり)」

音響「The Five stairsteps「O-O-H Child」 EO